

日比五郎右衛門殿

七 御算用場奉行代官支配之儀等御定

定

- 一、代官所收納米無滯様念を入可申付、萬一百姓難成於有之者、代官中可申談事。
- 一、代官所算用事、如定置一ヶ年切に可遂勘定事。
- 一、村々一ヶ年に兩度相越見計、諸百姓無油斷農作相勤候之様可申付事。
- 一、荒地見計、大豆・麥・稗之類、百姓ども開作候之様可申付事。
- 一、村々肝煎等、公役并給人用所之外、金澤に候儀堅令停止事。
- 一、見立檢地於遺之者、罷出令相談、見立極上、帳面加判形、百姓等にも見立帳可渡事。
- 算用場に豊前より書付可出事。
- 一、百姓共無故見立檢地申請事可停止。無見立不叶時分は、
- 一、見立檢地於遺之者、罷出令相談、見立極上、帳面加判形、百姓等にも見立帳可渡事。

にも可相渡事。

- 一、宿々在々夫・傳馬之儀、無油斷可相改。若夫・傳馬偽申懸者於有之者、其人或届置、或とらへ、安房守・因幡守に可相斷事。
- 一、一年に兩度村々相越、百姓共無油斷農作相勤候様見計、荒地於有之者、大豆・麥・稗之類開作候之様に可申付事。
- 一、諸百姓出銀、家一間に三匁宛可申付。右員數獲不懸申様可入念事。
- 一、村々肝煎等、公儀并給人用所之外金澤に候儀、堅令停止事。
- 一、百姓無故見立檢地申請事可停止。無見立不叶時分は、算用場に五郎右衛門書付可出事。
- 一、見立檢地之者於遺之者、五郎右衛門罷出令相談、見立極上、帳面加判形、百姓等にも見立帳可渡事。
- 一、納所口米如定、其外同宿々用所申付、毎歲爲扶持方米二十石可宛行事。
- 右之條々不可有違背者也。

寛永十四年三月十九日

- 一、村々一ヶ年に兩度宛相越見計、諸百姓無油斷農作相勤候之様可申付事。

- 一、荒地見計、大豆・麥・稗類、百姓共開作候之様可申付事。
- 一、村々肝煎等、公役并給人用所之外、金澤に候儀堅令停止事。
- 一、百姓共無故見立檢地申請事可停止。無見立不叶時分者、算用場に代官より書付可出事。
- 一、見立檢地於遺之者、罷出令相談、見立極上、帳面加判形、百姓等にも見立帳可渡事。

- 一、口米下行之事、藏米拂所に隨而員數可爲如定置事。

- 一、諸代官下代村廻、爲賄料一ヶ年に一人に付而二人扶持、但半年分可下行。百姓前より一切無雜用様堅可申付事。

- 一、代官所之内村傳下代一人に付、馬一疋可乘。此外猥夫・傳馬於申懸者可爲曲言事。

御付紙。代官勿論村傳馬一疋可乘之。右條々不可有違背者也。

寛永十四年三月廿日

青木次太夫 一通

- 一、口米下行之事、藏米拂所に隨而員數可爲如定置事。
- 一、利波・婦負郡山方令裁許、無油斷山廻可申付。用木以下入念相改、渡方可遂吟味事。付、山方若過料銀可召置儀於有之者、年寄中相談、其上を以て可沙汰事。
- 一、諸代官下代村廻り爲賄料、一ヶ年に一人に付而二人扶持。但、半年分可下行。百姓前より一切無雜用様、堅可申付事。
- 一、代官所之内村傳下代一人に付而馬一疋可乘之。此外猥夫・傳馬於申懸者可爲曲言事。

寛永十四年三月廿日

篠島 豊 前

定

- 一、代官所收納米無油斷様念を入可申付、萬一難成百姓於有之者、代官中可申談事。
- 一、堂形藏に米善惡改之事、藏奉行令相談、百姓不及迷惑程に可申付事。
- 一、代官前算用之事、如定置一ヶ年切に可遂勘定事。